



効率の良い収納計画とは…？ まず、収納の種類や機能を知ろう！



「住まいづくりのなかで、何を重視しますか？」というアンケートで、常に上位に挙がるのが収納スペースです。新築したときは余裕があるつもりでも、年月が経つに連れ様々なモノが増え、収納スペースが足らなくなつたという声を多く聞きます。より効率の良い収納を考えた間取りにすることが、これからの暮らしにゆとりをつくります。

使い勝手の良い収納は快適な住まいの条件。

効率良く収納するコツを教えてください！

マイホームの完成後に、「もっと工夫すれば良かった」、「後悔した」といったケースが多いのが収納です。

経験豊富な住宅メーカーに相談する事をおすすめします。

● 「使うところにしまう」が基本

最も便利で片付けやすい収納の基本は「使うところにしまうこと」です。もちろん、そうなれば収納も数多く必要になります。例えば、キッチンで使うものはキッチンに収納し、リビングで使うものはリビングに、子ども室で使うものは子ども室に収納し、季節のもの、大型のもの、どこにも属さないものはまとめて大きな収納へ…というのが理想です。

また、ムダのない収納にしたいなら、最初から細かいことは考えないで、いっそ引っ越しが済み、ある程度人の動きや物の位置関係がわかってから、細かい棚をつくりたり、収納の寸法にあわせてパイプハンガーを設けたりするのもいいでしょう。

● 絶対的な収納量を確保するなら 納戸がおすすめ

現代では、一人ひとりの持ち物の数がどんどん増えています。昔は、壊れるまで使う、必要なものは買わない、ということが当たり前でしたが、最近は暮らしが豊かになった分、持ち物の量も増加しています。日常の生活空間に持ち物があふれ出て、収拾がつかないことに…なっていませんか。

そんな大量の収納が必要ならば、中途半端に飾り棚を兼ねたような収納を作るより、最初から思いきって納戸を一室設けたほうが、効率はかなり良いでしょう。いつまでも建てた当初のスッキリとした暮らしがしたいが、持ち物を新築したときと同じ分量に保てる自信のない人には絶対おすすめです。たとえば、寝室やリビングを少し狭くしてでも納戸を一室設けることにより、ゆとりをもって広くした場所が物の置き場所にしかならない、といった状況を脱することができるでしょう。

● 各収納のメリット・デメリット

住まいの収納は用途や場所によって様々です。生活に密着した収納やデッドスペースを活用した収納もあります。

WIC（ウォークインクローゼット）

主寝室に設けられる事が多い収納です。主に衣類を収納する目的で設置されます。大型なら衣替えシーズンでも便利です。ただし、衣類以外の家具などの収納には不向きです。

パントリー（食品庫）

キッチンのそばにあり食品を貯蔵するためのロッカーです。食品を貯蔵する目的で設置します。基本は貯蔵庫なので、上手に使わないとデッドスペースになる事も。

リビングストレージ（リビング収納）

リビングは人が集まる場所で、たくさんのモノが持ち込まれるのに、収納が少ないケースが多くみられます。お客様が来られることもあるので、扉がある備え付けの収納があると大変便利です。

小屋裏収納

屋根裏部屋（ロフト）を収納スペースとして活用します。大型の収納空間にすることが可能ですが、出し入れに多少手間がかかる場合が多いので、季節ごとの収納に適しています。

階段下収納

階段下のデッドスペースを活用して掃除機や日用品を収納できるスペースです。本来は使わない空間の有効利用が可能ですが、収納のしにくさはあります。

